

スポーツ×デジタルの新たな可能性

体を動かすときだけでなく、試合を観戦する場面でもデジタル技術が活用されています。例えばVR(仮想現実)ゴーグルを使うと、目の前に立体的な映像が広がり、自宅にしながら試合会場にいるような感覚で観戦ができます。テレビ以上の臨場感を味わえるだけでなく、会場に設置された複数のカメラから好きなアングルを選択し、自分だけの特等席を楽しめる試みも進んでいます。

さらに、近年急速な盛り上がりを見せているの

が、ビデオゲームを使った対戦をスポーツとして楽しむ「eスポーツ」です。ルールに基づき勝敗を競うところは、ゲームも立派なスポーツです。格闘ゲームやシューティングなどでは反射神経や戦略性など、頭と身体をフル回転させる点でも、体を動かすスポーツに負けない魅力があります。

この背景には、コロナ禍で多くのスポーツイベントが中止となる中、自宅で遊べるオンラインゲーム人口の増加が要因といわれています。

楽しみ広がる「スポーツ×デジタル」



▲eスポーツ



▲ウェアラブルデバイス



▲VR観戦

今後もデジタル活用が進んでいくことで、スポーツにおけるパフォーマンス向上や応援の楽しさ、健康増進など、さまざまな魅力が広がっていくことでしょう。また、スポーツを始めるハード

ルが下がり、競技人口の拡大につながることも期待されています。みなさんも日々の暮らしをより豊かにするために、小さなことから「スポーツ×デジタル」に挑戦してみませんか？

用語解説

ウェアラブルデバイス

手首や腕、頭などに装着するコンピューターデバイス。腕時計型のスマートウォッチ、メガネ型のスマートグラスなどがあり、活動量計や睡眠計、電話やメール通知機能などが搭載されている。

eスポーツ (エレクトロニック・スポーツ)

電子機器を用いて行う競技またはスポーツの総称。国内でも大規模な大会が開催されるなど、政府主導で環境整備を進める方針が示されている。

みなさんの「困りごと」を教えてください

「デジタルが苦手」、「これってデジタルで解決できないの?」、「日常でこんな悩みがある」など、みなさんが暮らしの中で感じている困りごとをお聞かせください。



▲ご意見はこちら



お問い合わせ先 総務課 行政係 ☎ 0965-52-7111



暮らしに身近になってきたICT・デジタル技術について、さまざまな情報を発信する連載企画「#デジ活」。今回のテーマは「スポーツとデジタル」です。スポーツや関連イベントなども、デジタル技術による次世代の楽しみ方が広がっています。話題となった最新技術や、新たなスポーツとの関わり方をお届けします。

世界が注目した最新技術

スポーツは年齢や性別を問わず、多くの人々に楽しまれています。デジタル技術の活用によって、従来とは異なるアプローチで魅力を生み出す「スポーツDX」の動きが活発になっています。

2022年に開催されたサッカーワールドカップの日本対スペイン戦。日本代表の決勝ゴール時に

使用された「VAR」と呼ばれるシステムによって、ミリ単位でボールや選手の動きが瞬時に解析され、日本サッカー界の歴史的な勝利につながりました。

スポーツとデジタルの連携は、ますます注目が集まっています。



VAR (ビデオ・アシスタント・レフェリー)

人間の目だけでなく、ビデオ映像と組み合わせた審判を行うシステム。2022サッカーワールドカップでは、上空から撮影した映像のほか、ボールに内蔵したセンサーチップによって、フィールド上のボールの位置などが正確に測定され、精度の高い判定が行われた。



デジタルが日々の運動をサポート

プロスポーツ選手をはじめ、日ごろの運動にデジタル技術を取り入れる動きも増えています。例えば、トレーニングの様子を撮影した映像をAIが分析することで、正しいフォームでできているかなどを判定し、より良い成果につなげることができます。

また、サッカーやラグビーのような集団競技では、ドローンで空中から練習風景を記録し、選手1人ひとりの弱点やミスを分析することで、監督が最適なアドバイスを行えるようになります。

最近では身に付けて利用する「ウェアラブルデバイス」が普及し、生活にも身近なものになってきました。歩行距離や走行距離、消費カロリー、心拍数などを自動的に記録してくれることで、運動による健康増進やモチベーション維持につながっています。

